

推進本部だよ

カトリック広島司教区平和の使徒推進本部

2017-2019年度広島教区年間テーマ

チャレンジ 新しい福音宣教 わたしをお使いください

— 教会へのチャレンジ — 2017年度「祈る使命(祭司職・典礼)」



完全なもの

先日、教区司祭の黙想のとき、一回目のミサの福音でマタイの5章が読まれました。その最後の1節は「あなた方の父が完全であられるように、あなた方も完全なものとになりなさい。」でした。お話ししてください。司教様は、教皇ベネディクト16世の回勅を用いて説明して下さったのですが、その時よく解らなかつたので帰ってから搜してみました。

回勅「神は愛」(19 日本語版 42 ページ)で「父は人類を御子の内に一つの家族とすることを望んでいるからです。教会のすべての活動は、人間の完全な善を求める愛を表します。教会は、みことばと秘跡を通じて福音をのべ伝えることを目指します。福音は、歴史の中でしばしば英雄的な仕方でのべ伝えられました。教会はまた、さまざまな生活と活動の領域で人間が発展することを目指しています。それゆえ、愛とは、物質的なことながらも含めた、人間の苦しみと必要に絶えずこたえるために教会が行う奉仕を意味します。」

また次のように言われています。(同 29 58 ページ)「信徒は国家の市民として、個人の能力に応じて公共生活に参加するよう求められています。ですから信徒は、『組織的にまた制度的に共通善を促進することを目的としている経済、社会、法律、行政、文化上の多様な分野』への参加を放棄することはできません。それゆえ信徒の使命は、社会生活の正当な自律性を尊重し、それぞれの能

力に応じて他の市民と協力し、自らの責任を果たすことを通じて、社会生活を正ししかたで形づくることです。教会による愛のわざの特定の表現を国家の活動と混同することはできないにせよ、信徒の生活全体を一したがつて『社会愛』として行われる信徒の政治活動を動かす力とならなければならないのが愛であることは変わりありません。」

愛はすべての分野において基準となります。個人的なかかわりだけでなく、社会的、経済的、政治的などでも。完全なものとなるのは、すべてのものに愛を注がれる父に倣う、どの分野でもということでしょう。

—「教会へのチャレンジ」のヒント—

聖霊の神殿としての教会

今日は、教会の神秘を説明する助けとなる、もう一つのイメージについて簡単にお話ししたいと思います。すなわち、聖霊の神殿です(第二バチカン公会議『教会に関する教義憲章』6 参照)。

わたしたちは神殿ということばを聞いて何を思い浮かべるでしょうか。わたしたちは一つの建物、建築を思い浮かべます。とくに多くの人は、旧約で語られるイスラエルの民の物語のことを考えます。エルサレムにおいて、偉大なソロモンの神殿は祈りのうちに神と出会う場所でした。神殿の内部には、民のただ中に神が現存することを表すしるしである、契約の箱が置かれていました。箱の中には、律法の板とマナとアロンの杖が安置されていました。それは、神がご自分の民の歴史の中につねに

おられ、民とともに歩み、その歩みを導いたことを思い起こさせるものでした。神殿はこの歴史を思い起こさせます。わたしたちも神殿に赴く際に、この歴史を思い起こさなければなりません。わたしたちには皆、それぞれ自分の歴史があります。イエスがどのようにわたしと出会ってくださったか。イエスがどのようにわたしとともに歩んでくださったか。イエスがどのようにわたしを愛し、祝福してくださったかという歴史です。

さて、旧約の神殿であらかじめ表されたものは、教会において聖霊の力によって実現されました。教会は「神の家」です。神の現存の場です。わたしたちはそこで主を見だし、主と出会うことができます。教会は聖霊が住まわれる神殿です。聖霊はこの神殿を動かし、導き、支えます。わたしたちはどこで神と出会うことができるのか。どこでキリストを通して神と交わりをもつことができるのか。どこでわたしたちの人生を照らす聖霊の光を見いだすことができるのか。この問いに対する答えはこれです。それは、神の民であるわたしたちのうちにおいてです。わたしたちは教会だからです。わたしたちはこの教会において、イエスと聖霊と御父と出会います。

(中略)

そこでわたしたちは自らに問いかけたいと思います。わたしたちは自分が教会であることをどのように生きているでしょうか。わたしたちは生きた石となっているでしょうか。それとも、いわば疲れた石、退屈した石、無関心な石となっているでしょうか。疲れた、退屈した、無関心なキリスト信者は、見苦しくはないでしょうか。このようなキリスト信者となっていけません。キリスト信者は生き生きとしていなければなり

ません。キリスト信者であることを喜んでいなければなりません。教会という、神の民の一部であることのすばらしさを生きなければなりません。わたしたちは、聖霊のわざに心を開き、自分の共同体の活発な部分となっているでしょうか。それとも、「わたしにはやるのがたくさんあります。それがわたしの仕事でしょう」と言っていて、自分のうちに閉じこもっているでしょうか。

主がわたしたち皆にご自身の恵みと力を与えてくださいますように。こうしてわたしたちが、わたしたちの生活と、教会生活全体のかなめ石、支柱、土台の石であるキリストと深く結ばれることができますように。祈りたいと思います。わたしたちが主の霊に促されて、つねに主の教会の生きた石となることができますように。

教皇フランシスコの14回目の一般謁見演説「聖霊の神殿としての教会」(一部抜粋)

(カトリック中央協議会 訳)

—若者だけでなく全ての世代の信徒へ—

若者、信仰、そして召命の識別

親愛なる兄弟姉妹の皆様。お早うございます。

「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」(ヨハネ 15・11)。これは、あらゆる世代のすべての人々のための神の計画です。その中には、第三千年期を生きるすべての若者が一人残らず含まれます。

福音の喜びを宣べ伝えることは、神によって委ねられた教会の使命です。「新しい福音宣教」をテーマとするシノドスと、使徒的勧告『福音の喜び』は、いかにこの使命を現代世界において成し遂げるかを扱いました。一方、「家庭」をテーマとした二つのシノドスと、シノドス後の使徒

的勧告『愛のよろこび』は、家庭が福音の喜びを見いだすための助けとなるものでした。

教会はこの使命に従い、また「若者、信仰、そして召命の識別」をテーマとするシノドスを通して新しい方法を紹介しながら、どうしたら若者がいのちと愛の充満への招きに気付き、受け入れることができるか、彼らを導く方法を考察することにしました。若者と共に教会は、今日、福音を告げ知らせるための最も効果的な方法を識別する際に、若者の助けを求めることにしました。若者の話に耳を傾けることによって、教会は再び、神が現代世界で語りかけることばを聴くでしょう。サムエル(サムエル記上 3・1-21 参照)とエレミヤ(エレミヤ 1・4-10 参照)の時代と同様に、若者は聖霊によって導かれ、わたしたちの時代の時のしるしを識別することができます。教会は、若者の願望に耳を傾けることにより、将来の世界と教会が歩むよう招かれている道を、垣間見ることができるのです。

愛の召命は、日々の生活の中での一連の選択を通して、一人ひとり、具体的な形を取ります。それらの選択は、生活様式(結婚、聖職、奉獻生活など)、職業、社会的、公的な取り組み、ライフスタイル、時間や金銭の管理などに表れます。これらの選択が自らの意志でなされるのか、単に受け入れただけなのか、意識的か無意識にかかわらず、誰もこれらの選択を行うことから免れません。召命の識別の目的は、それらの選択を、信仰の光に照らして、皆が招かれている喜びの充満に向かう一歩へといかに変えていくかを見いだすことです。

教会は、「若者の力と素晴らしさの

根拠となるものを知っています。それらは具体的には、仕事に喜んで取り掛かる力、後退せずに完全に自身自身を投入する力、立ち上がり新しいやりがいを求めて再び始める力などです(第二バチカン公会議若者へのメッセージ、1965年12月8日)。教会の霊的な伝統という財産は、良心の養成と真の自由へと導く、多くの手段を与えてくれます。

世界代表司教会議(シノドス)第15回通常総会
準備文書「若者、信仰、そして召命の識別」序
文(一部抜粋)

(カトリック中央協議会 訳)

教会暦

- 07月01日 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者(記念日)
- 07月03日 聖トマ使徒(祝日)
- 07月11日 聖ベネディクト修道院長(記念日)
- 07月15日 聖ボナベントウラウ司教教会博士(記念日)
- 07月22日 聖マリア(マグダラ)(祝日)
- 07月25日 聖ヤコブ使徒(祝日)
- 07月26日 聖マリアの両親聖ヨアキムと聖アナ(記念日)
- 07月29日 聖マルタ(記念日)
- 07月31日 聖イグナチオ(ロヨラ)司祭(記念日)

(ホームページ)



2017年平和行事ポスター

